特
277
88

時局資料

支那に於ける國民主義運動と抗日運動の全貌

内閣情報部監修

昭和十二年九月

文部省

0006857000

0006857-000

特２７７－８８

支那に於ける国民主義運動と抗日運動の全貌

内閣情報部・監修

文部省

昭和１２

ABG

特277
88

凡例

一、本書は時局認識の參考資料として編纂したものである。

二、本書の内容は成る可く廣く利用せらるゝことを希望する。

目次

一、概　説……一
二、國民主義運動及抗日運動の淵源と趨勢……四
三、滿洲事變前後に於ける國民主義運動及抗日運動の展開とその全貌……二一
四、支那事變と抗日運動……一九

支那に於ける國民主義運動と抗日運動の全貌

一、概　說

由來、支那民族は個人的には立派な者も多いが、國家としては砂上に建てられた樓閣の如く極めて不安定なものであつたが、最近の支那は曲りなりにもコンクリートの建築に着手し、漸次近代國家の體裁を備へんとするに至つた。

此の建設作業の原動力は何かと云へば、孫文の唱へた三民主義に依る國民革命運動であり、この國民革命運動と表裏をなすものが抗日運動である。

抑〻孫文は所謂建國綱領なるものによつて革命を斷行し、如何に支那を建設すべきやを定めた。之に依れば、彼は三民主義實現に進む過程を次の樣に三期に分けて指示してゐる。

一、軍政期……軍事行動を起して、武力に依て反對者を克服した時期。
北伐の完成、共產黨に對するクーデターの決行、北伐後の反蔣派平定、
西南派との妥協（この間に抗日運動が促進展開された）。

二、訓政期……國民黨一黨政治
現在の狀態であつて地方自治制度の確立、富國强兵策の實施の時期である。
軍隊の中央化、軍備擴張、北支自治工作の策動、幣制の改革、憲法草案
の發布（この間に抗日運動は統一され挑戰的となり北支事變となつた）。

三、憲政期……將來
憲法發布、民選政府の確立。

右の圖表に於ても明らかな樣に、支那の建設は、三民主義による國家建設運動即ち國民主義運動と、抗日運動とが互に相交錯して發展してゐるのであつて、支那建國の政策として各種の反蔣勢力との妥協の結果、抗日運動も種々各樣なものが內包せられ、純粹の三民主義によるところの國民主義運動は僅かにその一部を形成する狀態に變化し、他種の主義運動が今日では寧ろ表面的な實勢力となつてゐる現狀である。この間の消息は次に大體を述べる豫定であるが、圖表に依つて先づ概念を握むことゝし度い。

表面

○三民主義による南京政府の建國政策
（國民革命運動）
（國民主義運動）

○南京政府の妥協せる政策
（共產主義）
（反蔣三民主義）

裏面

○抗日排日運動

A 蔣介石獨裁指導
一、ファシズムに依る抗日運動の一派
二、三民主義に依る抗日運動の一派
三、國民戰線派の抗日運動

B 共產黨系の抗日運動
一、中國共產黨及び紅軍による抗日運動
二、人民戰線派の抗日運動
三、其他各種共產的團體の活動

C 反蔣廣西派の抗日運動
一、反蔣の爲の抗日運動
二、三民主義に基く新生活運動

右表に於て明示される如く、國民革命と同時に發生した民族主義運動としての國民主義運動は、一方に國家統治、中央集權の諸政策の前衞運動として發展してゆく途中、各種障碍の出現により內容の變化を來し、純粹の支那建設の運動としてではなく、抗日運動として發展する樣になつた。而も抗日運動は裏面からみると實に恐る可き內容を包含してゐるのである。

二、國民主義運動及抗日運動の淵源と趨勢

支那が共和國としての宣言を發したのは大正元年の一月一日で、今日迄既に二十五年を經て居る。この共和國宣言以前にも數回排日行爲があつたが、支那民衆運動の發端として計畫的な政策として排日、抗日政策が登場したのは、共和國宣言後の第二期、即ち第三革命を前後として擡頭したのである。

支那の國家統一運動、即ち國民革命運動の眞髄は前述の孫文が唱へた三民主義であり、支那はこの孫文の三民主義を旗印とし、モットーとして革命を行ひ、中華民國を成立させたのである。

國民運動を指導して來た中國々民黨乃至は此の黨の上に立つ蔣介石政權が、爾來三民主義の忠實な信奉者であつたか否かは全く疑問である。

元來三民主義は、民族、民權、民生の三主義を一體としたもので、極端な排日主義を含んでは居なかつた。孫文は素より日本の好意を體し、合法的に、漸次に支那の內治を完全にして、次第に外國によつて侵害された利權を取り返して行かうといふ、合理的、理想主義を執つたのであつて、主戰的、挑戰思想は大體に於て含まれてゐなかつたものである。

ところが支那の革命統一運動の第二期即ち大正八年から大正十三年頃の間に、世界に非常なる突發異變が起つた。即ち世界大戰とロシア革命である。世界大戰の結果、有名なウイルソンの民族自決主

義が世界に謳歌され、支那に迎合された。又共產主義による打倒帝國主義の破壞的イデオロギーは次いで支那人の心に喰込んだのである。

ウイルソンの民族自決主義は、理想主義でむしろ建設的なものとして當時世界の國民に迎へられたが、共產主義はあくまで破壞思想であり、この破壞思想の持主である共產黨と國民黨の合流は、支那政治家の排日宣傳と相俟つて俄然支那の民衆運動の勃興を促し、猛烈な勢を持つて排日運動が行はれるに至つた。この事情は特に我々國民が念頭に置かねばならぬ事である。

之は素より支那一流の以夷征夷といふ常套手段から出たものであるが、何と謂つてもこの出發點が支那を誤まらせたのである。即ち、大正十三年正月、廣東に於て開催せられた國民黨第一次全國代表大會の決議に依つて、所謂容共政策が採用されたが、後大正十四年三月に孫文が北京に客死し、蔣介石が、兵權を中心に國民黨の實權を握るに及んで、共產黨と國民政府との間は一種の腐れ緣といふ樣なものになつて來てゐた。抗日運動を理解するには一應この兩者の經緯を知る必要がある。

大正十五年七月蔣介石が自ら國民革命軍總司令となり、七軍を統率して北伐の途に就いたのであるが、この留守中に共產黨の陰謀が成功して、翌年の昭和二年三月武漢に開かれた國民黨中央全體會議は、遂に蔣介石の軍權を始め一切の權力を剝奪するといふ手段に出た。

そこで蔣介石は武昌から軍を返し、南京を占領し共產黨彈壓のクーデターを强行し、武漢政府を否

認し、昭和二年四月十八日に南京政府を樹立した。

一方武漢に於ける共産黨は、蔣介石に對抗する爲に、同地唯一の實權者である唐生智一派の湖南軍と、國民黨内の左派である汪兆銘一派と聯絡して、湖南に於て共産派一流の赤色テロを決行し、地主の土地沒收と謂ふ土地革命の暴擧を敢てした爲に、さすがの唐生智も憤激の餘り態度を一變し、武漢に於ける共産黨にクーデターを加へた。そこで、南京と武漢の共産黨の排擊の結果、兩者は妥協合體し、ソ聯邦側の顧問は追放される事となつた。當時のソ聯邦側の顧問として、ボロジン及ガロン將軍（現在ソ聯極東軍司令官ブリユッヘル元帥）が居た事は衆知の事である。

偖、蔣介石は右の妥協促進及び黨勢維持の意味で八月十三日下野し日本に亡命した。これで蔣介石は二度日本朝野の恩顧を受けることゝなつたが、彼は恩を仇で返すといふ態度に出づるに至つたのである。彼は三ヶ月程日本に隱れてゐたが十一月九日、歸國して總司令に復職し、何應欽を前敵總指揮として北伐を繼續した。一方張作霖は北京に於て昭和二年六月自ら大元帥となり中華民國軍政府を組織したが、昭和三年六月三日北京引揚となり、國民革命軍の北伐は完成せられた。然しながら茲に大きな問題が殘されてゐた。

中國政府は共産黨に對してクーデターを敢行し銃殺、投獄等年々數萬を數へる程であつたが、之は表面的な立役者に對する處決であつて、革命第二期の容共政策以來扶植された共産黨の細胞組織は巨

大且つ根强いものであつた。クーデターに依つてその公然組織は破壞されたとは云ふものゝ、その實勢力は地下に潛行するに至り民衆運動の陰然たる勢力となり、最近に於ける中國共産黨の結成發展、中國共産軍の大活動、人民戰線派の表面進出等の結果を齎し、加ふるに蔣介石の秘密的な容共政策とに依つて、抗日、排日、挑戰の一大勢力の素地を蔣介石自身が作つたといふ結果になつた。その最近の事情に就いては後に詳細を述べる事にして、次に廣西派と蔣介石との關係を了解して置く必要がある。

蔣介石の北伐完成後、東三省にも靑天白日旗が揭げられる事になり、支那は形式上一應統一された觀があつたが、中央政府の政令は徹底せず、諸將領は互に嫉視、疑惑を抱いて對峙するといつた有樣で、終に昭和四年二月、李宗仁等の西南派は武漢に於て反蔣の旗を擧げ、五月十九日馮玉祥は反蔣宣言を發し、十月には廣西省の獨立といふ事態にまで發展した。然しながら右は何れも蔣介石の討伐に依り平定はしたが、反蔣運動は北支事變の今日に至つても依然熾烈で、その後の蔣介石對西南派の各種の妥協狀態を見ても、その精神は失はれて居らず、むしろ西南派の方が根强く抗日、排日の政策をスローガンとし、民族開放運動を大々的に決行し、一大宣傳教育を普及し、抗日促進をスローガンとして蔣介石に反對してゐるが、彼等の反蔣理論の根據として

「三民主義に基く國民主義運動は既に完了したから、憲法を公布して名實上支那の革命を完成させねばならぬ。然るに蔣介石は、孫文の所謂憲政期を實現する爲に國民大會を開いて、憲法を發布し、

主權を人民に移すのだと言ひながら、一向之を實行しないではないか。もう憲政期に入る可き豫定の時期は數年も過ぎて居るにも拘らず、蔣介石は依然として獨裁政治を行つてゐる。我々は孫文の意志を以て彼に反對するものである。」

と言つてゐる。玆に一言しなければならない事は憲法問題である。蔣介石は地方自治制度の確立を促進すると共に、反對派の强硬な主張に動かされて、昭和九年頃から憲法草案の起草に著手し、昭和十年に擧行された國民黨第五期一中全會（第五期中央執行委員會第一次全體會議）に於て、昭和十一年五月五日には憲法草案を公布すると決議し、豫定の通り五月五日中華民國憲法草案の宣布を見た。ところが同憲法の核心である選擧法の改正が曲者で、切角草案の公布を觀たものゝ反對續出といふ醜體を演ずるに至つたのである。

何故かと云へば、此の改正法に從へば國民大會代表中五百名の代表が選擧を經ることなく始めから國民黨から出るといふ事になり、全體代表千七百名中の約三分の一に相當するので、これでは國民黨の遣り口は國民大會ではなく依然として國民黨代表大會であり、蔣介石の獨裁政權を合法化するに過ぎないと云ふのである。

右の反對は廣西派がその先鋒となり、人民戰線派が之と共同戰線を張つてゐたのである。

そこで蔣介石はこの改正法に修正を加へるといふ口先丈の約束をして、一方反對派の主張を軟化さ

せ、轉化させる爲に、例の手段である抗日政策を振りかざして、逆に憲法の完成どころか、お前達の主張する樣に現在の急務は抗日戰線の擴大である、この際、內紛を止めて一致團結しやうではないか、應せざれば武力でもつて自己の主張を貫徹する計りであると恐迫した。そこで昭和十二年四月一日、李宗仁、白崇禧は中央派遣の參謀總長の監誓の下に廣西第五路軍正副司令に就任し、同日、李宗仁、白崇禧は全國に對して

「國難日に深き折柄、外に對しては犧牲なくしては國家民族の危亡を救ふ事は出來ない。內に對しては和平團結せざれば擧國抗戰の實行を促す途無し。我等は中央統一の領導下に於て速に抗戰禦侮の進行を策す事を期す。」

と通電して、中央の統制下にあつて抗日共同戰線を張る事を宣明した。かくして憲法運動も亦抗日運動によつて陰蔽されるといふ狀態になり、どこまでも抗日運動がつきまとつてゐる。

西南派の抗日運動の詳細は後に述べる事にして、玆では蔣介石が、如何に獨裁を行ひ、抗日、抗戰の基礎を確保してゐるかを一言しなければならぬと考へる。

國民政府は蔣介石の統治するものであるが、實際は蔣を首領とする國民黨に依つて牛耳られてゐる。即ち中央黨部が事實上の實權者でありその代表が蔣介石である。從つて國民政府は國民黨政權による獨裁政治を行つて居るのであつて次の樣な特徵を持つて居る。

(一)一切の政治會議に於ける決議と雖も、蔣介石の許可を經なければ實行不可能である。

(二)政治の中心は常に蔣介石の赴くところに從つて移動する。

(三)支那歴年の政治は實際上黨治ではなく結局個人の獨裁であり、年と共に强化しつゝある。

大體右の事情であるが、勿論、蔣介石獨りが政治を行ふのではない、その輩下には蔣介石一派を集めてゐるのである。而もそれ等の人物が皆一流の排日家である。

具體的に説明すると、昭和十年十一月十二日から二十三日迄の間に擧行された五全大會（第五次全國代表大會）に於いて中央委員の改選が行はれたのであるが、之は殆ど蔣介石の御用團體であり、排日秘密結社であるC・C團によつて御手盛されたものであるから、蔣介石派は絶對多數を占めたのである。從つて、十二月二日から同七日迄の間に擧行された第五期一中全會（第五期中央執行委員會第一次全體會議）に於いて決定された黨政各方面の責任者の顔振を見ても、中央常務委員會は九名の委員中五名迄が蔣派の排日家、政治委員會は委員二十五名及投票權を有する出席資格者を加へて總數四十五名中二十七名迄蔣派の排日家に依つて固められ、同月十二日の決議の際の行政院各部長も亦五名迄は蔣介石直系の抗日家である。此等の抗日主腦部が、國民黨部の宣傳部及び政府行政治下の教育、宣傳機關を通じて抗日宣傳、抗日煽動を二十年の長期に亘つて繰返して來たのである。

蔣介石の獨裁は地域的にも表面的にも擴大された爲、その獨裁に依る國民主義運動は抗日宣傳教育

の政策に依つて廿數年間築き上げられるに至り、今日恐る可き實を結ぶに至つたのである。即ち小學生時代からたゝき込んだ抗日教育が完成し、之等の小國民は成人し一流の抗日闘士になつたのであるから、事抗日運動に關する限り、内容的には民衆の勢力は蔣介石に集まつてゐるといはねばならぬ。

公然とした蔣介石の統一政策は右の如くであるが、尚この他秘密結社として國民黨及政府の援助指導の下に抗日宣傳を行つてゐるものに藍衣社及前述のC・C團がある。之は蔣介石が獨裁權確立の爲直屬の御用結社であり、抗日の陰謀本部である。

藍衣社は、張治中、賀衷寒等の黄埔軍官學校出身の軍人を中心として結成されて居るもので、軍隊内のみならず、民衆中にも潜勢力を持つて居り、親日家を暗殺するテロリストをも編入せしめて居る。藍衣社の公然としたスローガンは民主政治及三民主義を放棄してファッショ主義を採用し、蔣介石の獨裁制の實現を計ると同時に、日本に對しては徹底的抗日を敢行するものであるとなして居る。

然るにC・C團は陳果夫、陳立夫等の文人派を中心とするもので、藍衣社と同樣に國内にあつては蔣介石を唯一の革命的首領とし、彼の獨裁權獲得を援助し、反蔣軍閥、反國民黨思想を排撃し、外に對しては絶對抗日を目的としてゐる。

藍衣社がファッシスト的專制主義を主張するに對し、C・C團は飽迄國民黨としての立場を離れず、

三民主義を遵守せんとするものであるが、前者が惡質の抗日テロを遂行し、邦人に對して暴虐を行ふのみならず、支那の親日要人の暗殺を決行する事は、今日迄公然の秘密として世人に知られてゐる處である。先般、廣田外相が議會に於て、

「從前には支那要人中には私の主義に贊同して呉れた人が相當居たのであるが、今日に於てはそれ等の人々は殆ど暗殺されてしまつた爲、如何とも手のつけ様がない次第である。」

と嘆じた程、蔣介石輩下の秘密結社の横行は恐る可きものであり、その抗日運動は、支那人に對してすら、私刑、暴行を加ふる事に依つて强制してゐる有様であるから、蔣介石の獨裁が抗日運動に對しても如何に確固たる地盤と體系を保持してゐるかが確認せられるのである。

偖、以上で抗日運動の淵源とその趨勢の概略を述べたが、次に滿洲事變を契機として全面的に展開した抗日運動の大勢を述べ、北支事變を中心とする右の三潮流による抗日運動の大要を説明したいと思ふ。

三、滿洲事變前後に於ける國民主義運動及抗日運動の展開とその全貌

支那の抗日運動は一面支那の民族主義運動であり、國民主義運動であると見る事が出來る。嘗て廣

西派の首腦である白崇禧は我が武官に對して、

「自分等は、眠つてゐる支那民族をどうしても振ひ起さねばならぬ。支那民族の復興は尋常一様の手段では駄目である。一片のポスターとか新聞の宣傳では効きめが無い。そこで、或は死ぬかも知れないが、最後の手段として一本の注射をして、現在ふら〳〵狀態になつてゐる弱體の支那に抵抗力を與へる事が必要である。それが即ち抗日である。何故抗日の「日」を使つたかと云へば、日本が滿洲を取り、北支を壓迫し、支那の體の各部を椀ぎ取りつゝあるからだ。從つて之に對して抵抗しなければ、遂に支那は日本から取られてしまふぞと注射してゐるのである。」

と述べてゐる。世界大戰直後ウイルソン大統領の發表した民族自決の宣言が、支那の民族運動ひいては抗日運動に拍車を加へた事は前述の通りである。又從つて大正四年の二十一ヶ條の要求に次ぎ、大正八年の巴里會議に於ける山東問題に關しての日支抗爭に端を發し所謂五・四運動が發生し、同年五月四日、北京大學其の他の數千人の學生が所謂親日派の曹如霖、陸宗輿等の邸宅を襲擊した學生暴動が起つた。此の抗日運動は忽ち全國に波及して新文化運動其他の思想運動の魁となつた。

即、右の五・四運動に端を發し、漸次民衆の集團的行動、示威運動が發展して來ると共に、一方同運動は排日抗日運動として取上げられ、利用され、日貨排斥も之に從つて猛烈となつて來た。この間に於て歐米崇拜熱が高揚され反動的に日本蔑視の傾向が現はれ、留學生の多くは自由主義のアメリ

カ、イギリスに赴く樣になり、之等の若い留學生達が、受け賣の唯物的自由主義思想を持ち歸つたのも大なる原因の一つと考へられる。

第二にソ聯邦の影響を考へて見ると、前述の樣な容共政策の爲に急激に共產主義思想が支那の中堅知識階級、學生、勞働者群に流れ込んだ事は勿論であり、この流入の最も恐る可き結果は、共產主義の戰術の輸入である。鬪爭主義、運動工作の具體的な取入れが一躍して抗日運動を組織化し、巧妙化した事は劃期的なものである。今日の排日、抗日の技術、方法が全く共產黨の鬪爭戰術に類似してゐるのは全くこの爲である。中國政府當局の敎育と宣傳に對する體系的整備も、唯物的自由主義及ソ聯邦の煽動主義に依つて配合、組合されて出來たものである。

共產主義の影響は直ちに大正十一年の香港の大ストライキ運動となり、學生運動の後を承けて勞働運動が起り、邦人經營の紡績工場にも續々ストライキが勃發する樣になつたのである。

滿洲事變前に於ける排日、排日貨運動の重なるものは、大正八年五・四運動に始まる日貨排斥、大正十二年の旅順、大連の回收運動として起つた排日、排日貨問題、大正十四年の五・三〇事件に伴ふ日貨排斥、昭和二年及三年の山東出兵に對する反對運動としての排日、排日貨運動、昭和六年六月萬寶山事件に對する朝鮮人の報復事件を切掛として發生した抗日、昭和七年上海に反日援僑會が組織され堂々と日貨排斥を宣言した事から之を模倣するものが續出するに至り、終にこの反日援僑會は滿洲

事變を機として抗日救國會となり、對日永久經濟絕交をスローガンとして抗日運動を展開するに至つた。

滿洲事變が勃發するや、その痛手に刺戟されてか、俄然抗日民衆運動が、あらゆる形式、あらゆる方法に依つて戰鬪的に展開した。前述の抗日救國會の如きはその急先鋒である。同救國會は昭和十年北支自治運動の後聯合して上海各界救國聯合會となり、更に發展して全國各界救國聯合會となつた。亦他方に於ては共產黨の策動の下に所謂抗日人民戰線が組織され、ソ聯邦の前衞隊として、共產黨戰術として蠢動し始めたのである。

茲に滿洲事變及上海事變に際して勃發した抗日運動は、昭和八年の五月北支停戰協定を境として表面上一時緩和されたかの徵候が現はれ、昭和十年六月には邦交敦睦令の發布を見るに至つたが、同令發布後間もなく、抗日運動は一層熾烈となり、昭和十年十二月九日には北平に於て學生の抗日示威行進が行はれ、之を切掛けとして各地に惡性の學生運動が誘發され、その効果として昭和十一年に入り、一月二十一日角田巡査殺害事件が起り、七月六日上海に於て萱生殺害事件が突發し、八月二十日には長沙の爆彈事件があり、同二十四日に成都事件、九月三日に北海事件、同月十七日汕頭爆彈事件、同月十九日漢口吉岡巡査殺害事件、同月二十三日上海水兵殺害事件等の幾多の抗日テロ事件が續出した。

其後昭和十一年十一月に內蒙古民族の獨立自治運動が起り、綏遠問題が發生した。この事態に對して支那各地の新聞は一勢に筆陣をそろへて、內蒙古軍の行動は日本側の使嗾に依るものであると宣傳した爲、再び全支各都市に於ては學生團體其他が綏東將士激勵慰問金募集運動を起し、所謂救綏運動なる民衆運動は全國的に擴大した。ところが南京政府は此の運動を利用して、抗日的に指導し、殊に昭和十二年三月十五日には綏遠に於て綏戰陣亡軍民追悼大會を開催し、汪兆銘を特派して煽動を行ひ全國に於ては半旗を揭揚せしめて抗日意識の統一强化を圖つたのである。

恰かもこの機を前後として南京政府の抗日挑戰の決心がきまり、北支一帶に攪亂、挑戰準備の陰謀工作が進められてゐたが、詳細は北支事變を中心にして述べる事にして、抗日運動團體中最も注目すべき抗日人民戰線の活動に就いて一言し度いと思ふ。

滿洲事變以來支那に於ける共產黨及び共產軍の活動は非常なるもので、蔣介石は前述の樣に共產黨を自己の掌中に入れてみたり之を裏切つたりして居たが、滿洲事變後も秘密提携を計り、共產軍及共產黨を利用して抗日、排日の第一線に立たせ、延いては日ソを戰はせ自己勢力の强大化を圖らうとして、陝西附近に居る共產軍が山西省を衝くと云ふ時には中央軍を入れて山西省を中央化せんとし、中央軍と共產軍との間には虛々實々の駈引が行はれて、結局、共產軍をして北支の脅威たらしめやうとする手段に出て、今回の北支事變に際しても（詳細は後述）暗々裡に共產軍の活動を許容し之を煽

動して抗日運動に當らせてゐるのである。

人民戰線派とは之等の共產黨の策動のもとに、之が前衞として結成されたもので、同派は上海に於ける左翼分子沈鈞儒、章乃器等が主體となつて抗敵、禦侮を名とし、合法的な廣義社會主義の立場から文化界、職業界、婦女界等の各救國團體に呼びかけ之を統一し、次で大學敎授團、學生界救國會、工人救國會、國難敎育社等を聯合して「上海各界救國聯合會」なる强大な抗日團體勢力を結成した。

更に彼等は昭和十一年五月三十一日に上海に「全國各界救國聯合會」を組織して人民戰線派を一層擴大したのである。

右の人民戰線派のスローガンは

（一）內戰の停止　（二）政治犯の釋放　（三）紅軍との和議　（四）統一抗敵政權の樹立

であつて、明らかに抗日を武器として、支那の共產化を計らんとするものである。之に對して、中國共產黨の頭首毛澤東が呼應した事は勿論である。沈等はこの反響を得て益々同派を擴大して更に「江蘇救國聯合會」を組織し益々急進的な活動を開始した。

之等人民戰線の一派は國民政府に對して即時、對日開戰を要求して居る。蔣介石も抗日に關する限り、彼等の要求を諒とせねばならぬ譯で、蔣介石はあくまでも彼等を懷柔し、むしろ彼等を利用しやうとして居る。是即ち蔣介石の「安內攘外」の外交方針で、人民戰線派に乘せられて自己の地位を失

ふ事を恐れてゐる爲に玆に國民戰線なる抗日戰線を結成せしめた。

その原因は、昨年上海日本紡績工場に爭議が起るや人民戰線派の沈鈞儒、章乃器が蠢動して罷工委員會を組織し、非常に人氣を擧げ、その後「全國的對外抗戰、對內平和請願運動」といふ强力な大衆運動を起して來たので自己政權を奪取される危險を知つてか、國民黨部に命じて、全國民心の收攬策として、人民戰線に對抗す可く、救國統一運動を企圖し、玆に國民戰線運動を開始するに至つたのである。この動行の核心は前述したC・C團である。

この國民戰線派のモットーは

(一)封建的殘餘軍閥の否認

(二)共產黨、人民戰線に對峙

(三)奸漢膺懲

(四)全國一致救國抗日運動の完成

で、中國文化建設協會が表面上の主體となり、C・C團を背後勢力として全國各地に檄を飛ばした爲、澎湃として該運動の提携者が續出し新たな抗日運動として擡頭した。

以上を大觀すると、抗日運動を目標とする點に於ては各種勢力は一樣に戈を揃へ、支那全土には縱橫に俄烈なる抗日宣傳が展開し、一勢に日本に向つて咆哮し、挑戰してゐる事を明確に知る事が出

來る。

か樣な、壓へても壓へ切れぬ逆上的な抗日運動が北支に向つて集中し、玆に一大戰亂を突發せしめたのである。抗日挑戰は更に中南支にも及び今や全支に擴大して愈々本格的の日支交戰に迄展開するに至つたのである。最後に、結論として今次事變と抗日運動に就て述べる事にする。

四、支那事變と抗日運動

今次事變に於ける抗日運動を述べるに當り、之と重要な關聯を持つ國民黨の第五期三中全會（第五期中央執行委員會第三次全體會議）の內容を知る事が必要である。右會議は本年二月十五日から二十二日迄八日間南京に於て開催され、本會議に於て對日方針、對共產黨其他重要なる問題を議題に上げたが、本會議の最も重要な議題の一つは勿論對日問題であつた。

元來南京政府の對日態度の根柢は滿洲の奪回、少くともその宗主權の回收である。同會議では、この目的は今日では即時達成する事は不可能であるから先づ之が準備工作として、滿洲國の外壔である冀東の解消、冀察、內蒙の中央化を計る可しとしてその草案中には

「其の初步の解決は冀東、察北の匪僞をして其の依據する所を喪はしむ」

とある。

之を換言すれば冀東及內蒙の倚日關係を斷絕し之を完全に中央化する事が第一段の目的であつて、この目的が達成されたなら次で滿洲の奪回に着手す可きであるとなし、同會は決議として、

「本年中に冀東及察北を恢復し、冀察政務委員會を解消す可く、對日交涉を開始し、日本が若し之に應じなければ決然抗議し、交戰敢て辭す可らず。」

と斷じたのである。

而して之が爲に急遽抗日戰備として、全軍の統一（二月以來、整軍された軍隊は三十數ケ師である。空軍の擴張、保安團の整備（稅警團の名目で靑島方面に一萬五千の正規軍を駐屯せしめたのもその現れである）、其他靑年團の軍隊化、四川、漢口、鄭州の防備施設を決議し、共產黨との妥協が成立した。

先づ以上の決議の實行として北支方面に對し、蔣介石の指令に基き次の如き工作が實施せられた。

四月六日には綏遠省主席兼綏遠剿匪總指揮である傅作義が北平に入つて、軍、政、學界と聯絡をとり抗日宣傳と南京政權擁護の運動を起した、この爲に天津學聯、天津辯護士會等は公然と抗日態度を表明するに至つた。

四月下旬からの南京政府の華北に於ける攪亂工作は次の如くである。

（一）文化工作……華北に於ける各大學校長を逐次南京系人物に更迭を行つた。

（二）經濟工作……密輸取締を嚴重にし、日本側から密輸入されたものと見做される商品の購入者、所

有者を嚴罰に處すと公布して、南京を思ふ空氣を民衆に植えつけ始めた。

（三）交通工作……

（イ）何競武を華北運輸司令とし、平包、津浦、北寧、隴海、平包各路長を副司令として軍隊的の組織化を始めた。

（ロ）各路從業員に軍事訓練をなす事に決定し、五月一日より三箇月宛南苑に於て之を實施することにした。

（ハ）津浦、隴海線各沿線の主要地一帶に作戰工事を行ひ、地雷布設工事の準備を行つた。

（ニ）平漢路局長陳延炯は每週月曜に同局職員に對し抗日講話を始めた。

（ホ）元共產黨員であり後藍衣社に轉向した蔡某は藍衣社員多數を帶同して北平に乘込み、抗日煽動を開始した。

かくして本年三月以來五十件に亘る排日抗日事件が發生するに至り終に盧溝橋事件となつたのであるが、第二に注目す可き問題として共產黨との關係がある。

本年三月中國共產軍首腦毛澤東は米人作家スメドレー女史と會見した際次の如く述べたと言はれて居る。即ち

（一）日本をして即時對支侵略政策を放棄せしめる。

(二)日本をして東北四省と察北を返還せしめ、滿洲國と冀東政府を廢止せしむる。

(三)華北駐屯軍を即時撤退せしむる。

(四)支那各地に於ける日本特務機關を撤退せしめる。

以上の目的を達成する爲に年來の敵である國民政府と妥協して、抗日戰線に一致の行動を執るべきであると述べた由である。

而して實際に第廿九軍に對して抗日思想を煽り同軍將校の赤化に努力し出したのである。

更に共產黨關係では、中國共產黨駐ソ代表王明（本名は陳紹禹）が、事變勃發と共にソ國と陝西省にある支那共產黨本部との間を往復してコミンテルン本部の意なりとして次の事を蔣介石に提示した。

(一)ソ聯邦は支那共產黨を通じて、極力國民政府を援助する。

(二)支那共產黨は速に義勇軍を組織して、陝西・甘肅・山西諸省の諸軍と協同して西北地區に活動する。

(三)滿洲朝鮮及日本の共產黨員と協同して、日滿鮮內に暴動を起させる。

(四)在支日本紡績會社等に暴動を起させる。

蔣介石は勿論之等の提議を入れ、更に北支作戰に於ける戰術について赤軍參謀部の意見を取り入れ

たと謂はれて居る。

かくて北支一帶に共產黨による抗日宣傳、煽動は展開し、第一線支那軍の煽動に當り、一方陝西、甘肅方面に在る共產軍は北上を開始した。

更に抗日運動の第三潮流の主體である廣西派は勿論、國民政府を支援する事を宣言し、白崇禧等の名に依つて、日支開戰敢て辭せず、一擧全軍を擧げて日本軍を擊滅す可しと通電し戰時動員を發令し對日戰備を强化するに至つた。

偖、以上を通觀するに、國民革命に端を發した國民主義運動は各種勢力と合體して、一大抗日、挑戰の運動に展開し、終に北支次で中南支は砲聲天地に震動し、肉彈相飛ぶの修羅場と化するに至つた。

是實に支那全土に多年培はれた惡質の排日、抗日運動の爆發の結果である。

玆に於て我國民は我國の正當なる立場を明瞭に認識すると共に、彼の眞髓である抗日運動の如何に人道に叛く惡逆非道のものであるかを十分把握し、日本全國民の正論によつて支那國民の反省を求め、眞の和平提携の實を擧げる爲に、彼等が誤れる抗日思想から脫却する事を要求せねばならぬ。

支那の蒙を拓き、正道に復せしむる事は實に我が國民に與へられたる天與の責務である、使命である。

昭和十二年九月二十六日印刷發行

發行者　文部省

東京市麴町區永田町一丁目四番地

印刷者　小林又七

東京市麴町區永田町一丁目四番地

印刷所　小林又七印刷所

（本書の大きさは國定規格A5判）